

## 地域に出て地域に信頼されていることがわかりました



新入職員も被害の大きい地域を訪問

谷本健一（奈良・学生）、堀明子（宮城・事務）、小玉莉世（坂看護師・新人）さんは、津波被害の大きかった多賀城市桜木の友の会会員さん訪問をしました。

谷本さんは、この地域全体が床上浸水で、まだ水道が通っていないくて家の掃除が大変そう。必要な物資ということでタオルを渡しましたが、物資を小分けして袋ごと渡すことができればと話していました。

小玉さんは、地震を秋田で体験しました。テレビをみているだけでは分からないことが地域をまわり、被害の深刻さが分かったと話してくれました。職員と会員さんが話しているのを見て、坂病院が地域の人に信頼されている。「地域密着型」ということはこういうことなんだと理解することができましたとも。

大震災の年に入職された新入職員のみなさん、看護部門ならこの時期病棟に入って研修を始めている頃ですが、友の会会員さんまわり、避難所まわりと民医連の原点ともいえる活動に取り組み、貴重な体験を積んでいます。

4月7日、坂病院の学習時間は地域訪問行動、17組約70名が地域行動に参加しました。

### 家族と思って足湯サービス



足湯のあとはよく眠れます

多賀城中学校の避難所では、医療支援と共に“足湯”的サービスを行い大変喜ばれています。お湯は中庭でカセットコンロで準備。午前22人、午後34人の合計56人に実施。

避難所の方は日中自宅の後片付けなどで疲れて避難所に戻ってきます。「足湯はじめて」「とてもありがとうございます」「足湯のあとはよく眠れます」と話していました。

新人看護師の遠藤麻由さんは、福島県出身。実家が原発の自主避難地域に指定され、ご家族は避難所で過ごしています。「福島での支援はできないけれど足湯にこられる方が自分のおじいちゃんや両親だと思って取り組んでいます。」と話してくれました。配属は6階消化器病棟、この経験は病棟に配属されても役に立つと思いますと。



佐藤愛武（あむ）くん（8歳）。4月7日が誕生日です。友だちがお祝いしてくれたあと足湯にきました。少し体調を壊していましたが、足湯で元気回復。

宮城県でも県南では原発の影響で、避難所の子どもたちが外に出て遊ぶことができません。避難所での生活はプライバシーが保てないことなどもあり、子どもたちにもかなりのストレスが蓄積していると思われます。避難所に行ったらぜひ子どもたちとも遊んであげて下さい。避難所まわりでボール遊びや道具を使わないゲームをぜひ